

桜の聖母短期大学
親と子の広場

小さなクラスの

さくらっこだより

火・金曜日

2015年6月号

今年は「爽やかな春」があったのか…と思うくらい、5月から30度を越す暑い日が続いています。なんだか疲れが抜けない…でも、かわいい我が子は育児を休ませてくれません。そんな時はさくらっこに来てくださいね。スタッフや学生に子どもを任せて、ゴローンと寝転んでお休みしてもOK。本を読んでもOK。お茶を飲んでもOK。遠慮なくお休みください。心も身体も回復させ、リフレッシュして、また家庭での育児に張り切れるようになってくれたら、とても嬉しいです。

さて、こども保育コースの学生ですが、2年生は5月11日から30日までの3週間の教育実習Ⅱを無事に(?)終え、戻ってきました。1年生は、平日は授業があるので、毎週土曜日に6名ずつ参加しています。保護者の方に質問したり、育児の大変さを教えていただいたりしながら、毎回感動体験をさせて頂いています。おむつ交換を見せていただいたり、抱っこさせていただいたりしながら、子どもを理解しようと懸命です。子どもの心に寄り添い、育ちを見通し支えられる保育者になって欲しいと願っています。

応援、よろしくお願いします。

幼稚園に入園したお友達

生後4か月から広場に遊びに来てくれたYちゃんとHちゃんは、いとこ同士。以前はお兄ちゃんも一緒に広場に来ていましたが、この4月から幼稚園に通い始めました。お母さんによると、すっかり慣れて楽しんでいるとのこと。

幼稚園入園時、子どもが素直に不安を出して泣いたり嫌がったりするのは当然のこと。むしろ、気持ちを素直に出してくれた方がほっとします。泣かないで頑張ってしまう子は、何でも先生の言うことをきき、一生懸命「良い子」であろうとします。そして5月頃に我慢の限界がきて「ようちえん、行きたくない」となってしまうのです。S君は、最初は不安気だったそうですが、幼稚園（新しい環境）は大丈夫だと感じ、安心して遊びを楽しむようになったのですね。広場で一緒に遊んでいたAくんも同じクラスで席も向い同士になったと聞いて、どんな幼稚園生活を送っているのかますます興味深々です！

「先生の話をちゃんと聞くのよ」「お名前呼ばれたら「はい」って言うのよ」等々、あまりプレッシャーかけず、「たくさん遊んでおいで～」くらいがちょうどよいですね。

さてさて、YちゃんとHちゃんは・・・

髪の毛もふさふさになって、つかまり立ちをして、机のものをあれこれ探索。ロディに乗ってお母さんが揺らすと満面の笑み。二人揃って鏡の前に立って身体を揺らし、自分の姿を見て大喜び。

その成長ぶりに感動してしまいました！



Sちゃんと「ドキドキの再会」のワケ



Sちゃんは、昨年11月に来たときはまだ9か月でした。床にお座りして不安そうな顔をしていたのを覚えていますが。床の上では冷たいだろうと、さっと抱き上げてカーペットの上に移動してあげようとした私。「ぎゃー!!!」と大泣きされてしまいました。「しまった!」と猛烈に

反省。知らない場所で、知らない人に急に抱き上げられて、お母さんから離れたところ(1メートル位)に連れていかれたのですから泣くのは当然。

「ごめんね」と謝るものの、私は「怖い人」になったのだから

Sちゃんに近寄れず、お母さんにお願いしました。

・・・ということがあって以来、今日が久しぶりの再会!



Sちゃん、1歳3か月になりました。私はまだ「怖い人」と思われているかな…と不安でしたが、幸か不幸かすっかり忘れられていました。そして、お母さんからすぐ離れてテクテクおもちゃの方へ歩いて行って、好きなことを楽しみだしたのです。そして次々と興味のあるもので遊び始めました。なんて落ち着いた表情なのでしょう。会えなかった半年間、お母さんが大切に大切に向き合ってきたことが、Sちゃんの満たされた表情や行動から窺えました。当時は「子どもを連れて、準備して、出掛けるだけで大変!」と言っていたお母さんも、今回は余裕の表情に思えて、頼もしくも感じました。先輩ママとして、皆さんにたくさん経験談を聞かせてくださいね。

そこへJくんとお母さんが「何しているの?見せて!」と話しかけにきました。Sちゃん「チラッ」と見て、また黙々と遊び始めました。お母さん同士も話が弾むといいな…と、いつも私は思います。メールやラインと違って、おしゃべりすると、気持ちが軽くなると思いませんか?子育て中だから出会えたたくさんの人とつながって、親もネットワークを広げましょう。

「貸して」「いいよ」

お友達が遊んでいるおもちゃが欲しくなると、お子さんはいつもどうしますか?黙って奪い取る。欲しいのに行動に表さずクネクネとぐずる。遠くからじっと見ているだけ。様々です。また反対に、遊んでいるものを誰かに取られたときに(取られそうになったときに)お子さんはいつもどうしますか?相手にバイバイをする(あっちに行つての意味)。奪い返しに行く。泣いて訴える。こちらも様々です。

ではこの時、近くで見ていた大人として、どのように対応しますか?保育者の卵たち(学生)もどうしたらよいのか悩みます。育児(保育)には、答えがない。つまり決まった方法はないと言われます。それはその子によって、その場面によって、その状況によってすべて違うからです。

しかし、**子どもにどう育て欲しいか、そのために今はどんな体験が必要か**を心に留めておくことは大切です。その親の願いをその時々に応じて、具体的に言葉や行動にしていくのです。

物の貸し借りについて考えてみると、

- 欲しいときは欲しいと、自分の意思表示ができる人間になって欲しい
- 自分の気持ちを言葉で相手に伝えられる人間になって欲しい
- 相手の気持ちを汲んで、譲ってあげるやさしい人間になって欲しい
- 時には我慢ができる人間になって欲しい

親の願いとしては、このようなことがあげられるでしょうか。

では、近い将来そう育つために「今」大切にすることはなんのでしょうか。つまり、土台になることです。それは、「十分に満足すること」だと考えます。十分に愛されていると実感している子は、自分の意思を表しても大丈夫だと思えます。だから「いや」と言えます。「NO」と言えることは大切です。人にたくさん優しくしてもらった子は、満たされていて心に余裕がありますから、人に貸してあげることも簡単です。我慢については、満たされている土台の上で、「小さな我慢する経験」をします。親も一緒に我慢することで、子どもの気持ちを支えます。(例えば、おやつの時間と食事の時間の間には間食しないなど)。

保育園では、3歳未満のクラスでは同じおもちゃを出来るだけ人数揃えておきます。使いたくなかったときに、どの子も使えて満足できるようにします。つまり、この年齢で「貸して」「いいよ」のやりとりの経験は、まだ早いのです。おもちゃの取り合いの経験もまだ早いのです。近い将来、「貸してあげるね」「どうぞ」と自然に言える子に育つために、今は十分満足させてあげましょう。「いや」と言えた時には親として安心して「いやだったね」と共感してあげましょう。おもちゃを取られたら一緒に悲しがり、一緒に返してもらいに行きましょう。まだまだ一人で立ち向かう勇氣はありません。先日、我が子が使っていたおもちゃを他の子がさっと取っていったときに、取られた子のお母さんが相手の子を追いかけて行って「〇〇ちゃんが使っていたおもちゃだから、返してくれる？」と話しました。はじめはじっと聞いているだけでしたが、何度か話すと、おもちゃをすっと渡してくれた場面を見ました。小さな子どもでも、大人が言っていることをしっかり聞いています。大人のすることをしっかり見ています。相手の親子に気を遣い、自分の子どもに我慢させることは、お互いの子どもにとって「何を学ばせることになるか」慎重に考えると分かります。

広場は、みんなでみんなの子どもを見守り育ちあう場です。大人子どもも、自分の子も人の子も、一人の人間として「どう在るか」を大切にしたいと私は考えます。

最近嬉しいことに参加者が増え、トングが人気で使いたいタイミングが数人で重なることが分かりました。数を増やしておこうと思います。木製の乗り物自動車ポップも乗りたい子が重なりました。乗り物を増やそうとショベルカーの乗り物を準備しましたが、同じものの方が良かったかな？

平日の小さなさくらっこでは、子ども達の様子を見ながら、出来るだけ貸し借りしなくても良い環境を作っていきたいと思います。



おもちゃ選びは 「発達のちょっと先」がポイント！

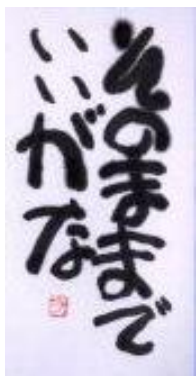
～「押し車」歩き始める頃に人気です～

Yくんは現在11か月。つかまり立ちはお得意です。つかまり立ちができるようになり視線が高くなり視野が広がると、みんな目を輝かせてきます。歩き始める年齢はそれぞれなので、焦ることはありませんが、子どもができるようになったことの「ちょっと先」のおもちゃを置いてあげると、興味を持ってやろうとします。この押し車の取っ手の高さは丁度よく、身体を支え、はじめの一步が踏み出せそうです。

大きい子ども達は、スピードを出して「ピヨピヨピヨ・・・」とアヒルの親子を弾ませていますよ。3歳のHくんは、自分が作ったお弁当をバッグに入れて、押し車の取っ手に掛けてお出掛けです。成長と共に、自分の経験と重ねて、様々なものに見立てて工夫して遊ぶようになるのですね。

広場では、自分よりお兄ちゃんお姉ちゃんがやっているのを見て、刺激を受けることも多くあります。いつも見ているだけだった子も、ある日突然、挑戦したりします。「見ている」ことは、何かを内に溜めている状態で、「その時」がきたらぐんと力を発揮するように思えます。





自前の考えを持ってない若者たち

親に対して暴力を振るう息子の相談が後を断たない。なくられて鼓膜や眼球を破損した母親や、骨折した父親の話など、もはやそれほど珍しくない。暴力を振るう若者は、あまりにもあてがいぶちの日常生活を押しつけられてきすぎた、という場合が多い。親の思い通りにいったときには賞賛され、その逆の場合には落胆や怒りの顔を見せられてきた。彼らは親の顔色をうかがいながら成長しているうち、自分でものを考える習慣を育てることができないまま思春期を迎えて、実態のない自分に、ひどい不安と困惑を感じているのである。

これこそ、子どもへの最高の愛情の表現である。すなわち無条件の承認である。条件をつけない愛情である。こういう愛情が与えられれば、子どもは必ず生まれもったものを豊かに開花する。

しかし私たちは、たいてい、条件つきでない愛情を与えることができない。これができればほめてあげる、あれができれば喜んであげる、これがないから腹が立つといったくあいである。そして、その条件が大きければ大きいほど、子どもは相手に対する不信感を大きくして、自分への劣等感も大きくしていく。

「こういうことができるに越したことはないが、できなくたっていいんだよ」とか「そういうことができればいいけど、いつからこれができるようになるかは、自分できめて努力すればいいんだ。いつまでも待っていてやるから。できなくたって、いいんだよ」、せめてこれくらいのメッセージにしておいてやりたいものだと思う。

『そのまま いかがな』は、私がいちばん好きな相田さんのことば。本書の題名にしたかったほど好きなことばである。

育てたように子は育つ 相田みつを・書 佐々木正美・著 より

<6月の予定>

2日(火) プレイルーム
5日(金) プレイルーム
9日(火) プレイルーム
12日(金) お休み
16日(火) お休み
19日(金) お休み
23日(火) お休み
26日(金) プレイルーム
30日(火) プレイルーム

<7月の予定>

3日(金) プレイルーム
7日(火) プレイルーム
10日(金) プレイルーム
14日(火) プレイルーム
17日(金) プレイルーム
21日(火) プレイルーム
24日(金) プレイルーム
28日(火) プレイルーム
31日(金) プレイルーム

親と子の広場のご案内

	小さな“さくらっこ”	“さくらっこ”
日時	火・金曜日 10:30 ~ 12:00	土曜日 10:00~12:30
場所	プレイルーム	プレイルーム
年齢	0歳~就園前	0歳~小学生
参加料	無料	500円(親子一組)(各回) 兄弟(3歳以上)はプラス300円
登録料 (保険料)	子ども一人当たり 300円(年1回) ※おうちの方と一緒に参加してください	
持ち物	特にありません ※日常、お出掛けの時に持参する飲み物や着替えなど、 必要と思われるものを各自でご用意ください	
担当	桜の聖母短期大学 淋 光江 (土) 奥田美由紀(火)(金) こども保育コース教員 ※こども保育コースの学生も勉強のため参加します。	

桜の聖母短期大学 福島市花園町 3-6 ☎ 024-534-7137 (代表)